

玉柏

山中地ニハヒテ生ズ、其蔓長サ五七尺、枝多ク分ル、葉ハ土馬駿ニ似テ黄綠色ナリ、四月枝ノ梢ゴトニ穗ヲ生ズ玉柏ニ異ナラズ、

〔重修本草綱目啓蒙十六〕玉柏 マンチングサ新校 日光ノマンチングサ マンチングサ 花戸 ビロウドスギ同上

即次ノ條ノ石松ヒカゲノカツラノ草本ナル者ナリ、深山幽谷ニ生ズ、一莖直上ス、高サ五七寸、上ニ枝ヲ多ク分チ、土馬駿ノ如キ細葉多ク著テ石松ニ異ナラズ、夏已後枝頂ニ穗ヲ生ズ、長サ一寸許、濶サ三分許、周圍細鬚アリテ、葉ノ形ニ異ナラズ、黄白色ノ苗冬ヲ經テ枯レズ、故ニ千年柏萬年松ノ名アリ、又別ニ一種高野ノマンチングサト呼ブ者アリ、苔ノ類ナリ、根ハ蔓ニシテ長ク地上ニ延ク、處處ニ莖立テ地表ノ如キ細葉簇生ス、深綠色ナリ、採リ貯ヘ久シクシテ乾キタル者水ニ浸セバ、便チ緑ニ反リ生ノ如シ、是物理小識ノ千年松ナリ、

增衡嶽志曰、萬年松出祝融峯縣崖上、本草類也、高者三四寸許、凌冬不凋、連根拔之、收巾筒中、歷數年、取而植之、蒼翠如故、又拔收之、再經歲月、復植亦復如是、海内名勝志云、蒙自山中有仙草、葉圓枝細、採其葉乾之一二年、蘸以泉井或呵之、復鮮如故、此亦大和山萬年松之屬也、

松葉蘭

一種カサゴケト呼ブモノアリ、莖細クシテ高サ僅ニ二寸許、一莖直上シテ枝ナク、頂ニ葉ヲ生ジ、傘ノ狀ヲナス、徑リ一寸餘、ソノ色黯綠色ニシテ、湯ヲ澆タルガ如シ、深山幽谷石苔中ニ混ジ生ズ、

〔草木育種下〕

葉或實視べきもの松葉蘭 中山傳信録の松蘭竹蘭の類なるべし、九州伊豆安房等の

高山岩石の間に生ず、石を割て是を採也、植る盆の水抜の穴を大くあけ、陶器の罅を伏へごを刻て入、或ハ櫻欄の毛を入、其上へ山の黄土あかつちの塊を入れて、山の樹の根などを掘たる赤土へ、へごを粗く刻てませ植てよし、常に北陰ひかげに置、北風をよく通し、折々米泔水を澆べし、霖雨の節ハ内へ取入べし、冬ハ土藏へ入るなり、